

(別添4)

【南部町】1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の新たな社会Society5.0の到来を迎え、また、人工知能(AI)等の技術革新も急速に進み、いままでの延長線上にはない予測困難な時代を迎えている。このような時代を生きる児童生徒には、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められる。

そこで、GIGAスクール構想により実現した、子どもたちの1人1台端末環境をいかし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、子どもたちが自ら進んで学習する自律的な学習者となり、自由な発想でICTを活用し、見出した課題を主体的に解決する探究的な学びを推進する。また、「学ぶ意欲を高め学力を伸ばすとともに、社会の進展に対応できる児童生徒の育成」を目的とし、情報活用能力の向上、教員の指導力・活用能力の向上、教育の情報基盤の構築、教育情報化に向けた体制整備の4つの方針を掲げ、これらの方針に沿った具体的な施策を計画的かつ総合的に進める。(南部町学校教育情報化推進計画参照)

2. GIGA第1期の総括

令和2年度にはGIGAスクール構想実現のために、児童生徒1人1台の端末及び各学校の校内LANを整備し、学校でのICT機器を活用した学びができる環境を整えた。全町共通の学習用ツールを導入するとともに、小学校1年生から中学校3年生まで引き継げるアカウントを活用することにより、教職員、児童生徒とも同じ環境で学びを継続することでICT活用が進んだ。令和3年度には、各地域振興協議会へのWi-Fi環境整備やモバイルルーターの貸出等複数の対応オプション準備を進め、家庭への端末持ち帰り使用が可能となる環境を整えた。また、ICT支援員を配置し、要請や必要に応じた各学校への支援を行うことができる体制を整え、ICTの活用を図った。また、令和2年度より、順次大型モニターの更新を行い、情報の共有化やオンライン校外学習等による実感を伴う学びを展開することができた。一方、教員間や学校間のICT活用、ICT活用指導力に差が見られることから、各校での研修会の開催やICT支援員による支援を引き続き行っていくことが必要である。

GIGA第1期のネットワーク整備により通信環境は整っているが、引き続きネットワークの確実な点検を行い、必要に応じて改善を図っていく。(南部町学校教育情報化推進計画参照)

3. 1人1台端末の利活用方策

児童生徒の学びを広げ、力を高める～情報活用能力の向上～

- 発達段階や各教科等のねらいに応じて、学習活動の中にタブレット端末を効果的に活用する場面を取り入れ、授業改善を進めながら児童生徒の情報活用能力の向上を図る。
- タブレット端末の利便性だけでなく、情報化がもたらす問題点等を十分に理解し、児童生徒が適切に活用するための判断力を身に付けさせるため、学校での利活用を前提とした情報モラル意識の涵養を図る。

(1) 発達段階に応じた情報活用能力の育成

- ・ 義務教育段階に止まらず高等学校3年生までの12年間を見据え、それぞれの発達段階や障がいの特性に応じて「社会とのつながり」を意識した学習を行い、進学先や就職後の社会で生きていくために必要な情報活用能力を育成する。
- ・ 児童生徒がICTの特性を理解し、適切にICTを活用して主体的に学ぶ力を高める。
- ・ 情報技術の役割や影響を知り、情報モラルの必要性や情報の取扱いに対する責任について正しく理解し、情報社会に参画する態度を身に付ける。

(2) 効果的なICT活用の推進

- ・ 学習の効果を高めるためのツールとして、ICTを授業における一斉学習・協同学習・個別学習に取り入れ、目的に応じて適切に活用し、わかりやすく理解が深まる授業づくりを推進する。
- ・ 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するためICT活用を進める。
- ・ 災害や、不登校・病気等で登校ができない場合においても学びを止めないため、ICTを活用した遠隔教育等を実施するように努めるとともに、日頃から家庭学習でICT活用を推進する。

(3) 新たな価値を生み出す創造力の育成

- ・ 地域と連携した探究的な学習を行い、新たな価値を生み出す創造力を持った児童生徒を育成する。

(南部町学校教育情報化推進計画参照)